

当月のS&P MLP 指数の動き

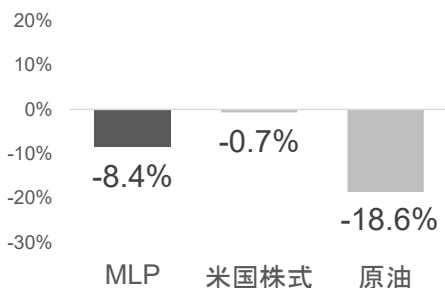
6月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+2.5%と2ヵ月連続での上昇となりました。

上旬は、米中貿易協議の進展期待などを背景に、米国株式や原油先物が上昇基調となる中、MLPも上昇しました。その後は、中東情勢の緊張緩和などを背景に原油先物が大きく下落したことなどをを受けて、MLPは下落基調となったものの、月末にかけては、米利下げ観測や米通商協議への楽観などを背景に米国株式が上昇したことなどから、MLPは値を戻す展開となりました。

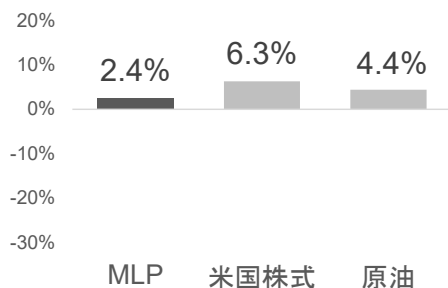
過去3ヵ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

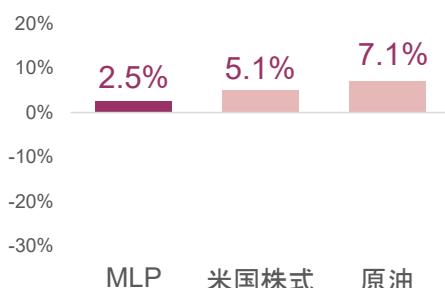
2025年4月



2025年5月



2025年6月



MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率			
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比	
	2025/6/30	2025/5/31	2025/3/31	2024/12/31				
S&P MLP 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	9,883.41	9,638.76	10,274.07	9,363.36	2.5%	-3.8%	5.6%	
プライスリターン	1,787.88	1,743.62	1,896.20	1,759.87	2.5%	-5.7%	1.6%	
S&P 500種 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	13,712.71	13,049.13	12,360.21	12,911.82	5.1%	10.9%	6.2%	
プライスリターン	6,204.95	5,911.69	5,611.85	5,881.63	5.0%	10.6%	5.5%	
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	1,512.64	1,442.72	1,654.33	1,501.02	4.8%	-8.6%	0.8%	
プライスリターン	648.68	619.34	715.75	654.85	4.7%	-9.4%	-0.9%	
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)								
トータルリターン	1,824.75	1,834.89	1,845.98	1,828.72	-0.6%	-1.2%	-0.2%	
プライスリターン	345.37	349.82	352.96	353.27	-1.3%	-2.2%	-2.2%	
米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))								
トータルリターン	1,799.02	1,766.25	1,736.99	1,720.74	1.9%	3.6%	4.5%	
プライスリターン	70.07	69.18	68.78	69.26	1.3%	1.9%	1.2%	
米国10年国債利回り	4.23%	4.40%	4.20%	4.57%	-0.17	0.03	-0.34	
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり	65.11	60.79	71.48	71.72	7.1%	-8.9%	-9.2%	
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	3.46	3.45	4.12	3.63	0.3%	-16.1%	-4.9%	
米ドル (対円)	144.03	144.02	149.96	157.20	0.0%	-4.0%	-8.4%	

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスは5月31日、7月の原油生産を5、6月と同量増やすと決めた。増産幅が拡大するとの観測が一部にあったことなどから、6月2日に原油先物が買われた。
- 米中両国は10日の通商交渉で、前回5月の交渉での合意内容の実施に向けた枠組みで合意した。合意の具体的な内容は明らかにされなかったが、ラトニック米商務長官は、中国のレアアースの輸出規制が見直されることとなり、それを受け、米国の対中輸出規制も緩和されるだろうとの見方を示した。11日の原油先物は、米中交渉の進展やイランを巡る地政学リスクへの懸念などから急反発した。
- 17日、米国のトランプ大統領は、カナダでのG7サミット(主要7カ国首脳会議)への参加を途中で切り上げて帰国し、イスラエルとイランの衝突の終結をめざすとした。また、イランに対する無条件降伏の要求や、イランの最高指導者ハメネイ師をけん制する内容の投稿を行なった。さらに、同大統領が米軍によるイランの核施設の攻撃を検討していると主要メディアが相次いで報じた。中東情勢の不透明感が強まり、原油先物が反発した一方、米国株式は反落した。なお、原油先物は18日も続伸し、WTI先物が1バレル=75.14米ドルと1月以来の高値を付けた。
- 23日、イランがカタールの米軍基地にミサイルを発射したと伝えられた。ただし、トランプ米大統領は、事前に通告があったとして、死傷者は出なかったとSNSに投稿したほか、中東情勢の緊張緩和に期待感を示した。イランの報復攻撃が限定的だったとの受け止めが広がり、原油先物が急反落した。

今後の注目点

- 7月から、2025年4-6月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

過去3カ月の原油価格の動向

米国の相互関税が世界景気を悪化させるとの見方やOPECプラスが5月から原油を増産する方針を示したことなどを受け、原油先物は大きく下落し、WTIが5月5日に1バレル=57.13米ドルと2021年2月以来の安値を付けました。その後は、米関税交渉の進展や中東の地政学リスクの高まりなどを受けて反発し、6月18日にWTIが75米ドル台まで上昇したものの、中東情勢の緊張緩和などを背景に、6月末にかけて原油先物は大きく下落しました。

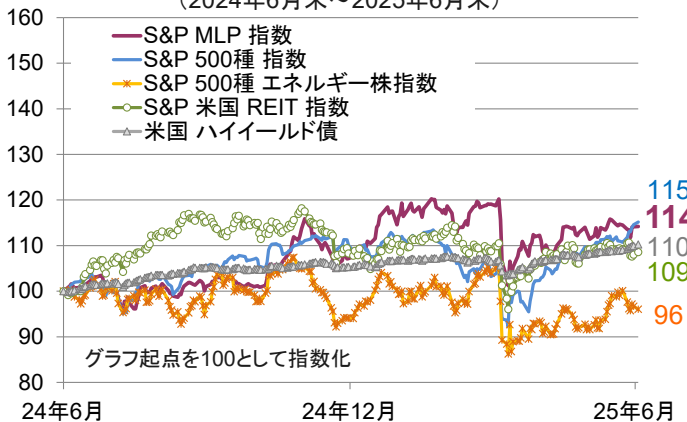


信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移（米ドルベース／トータルリターン）

(2024年6月末～2025年6月末)

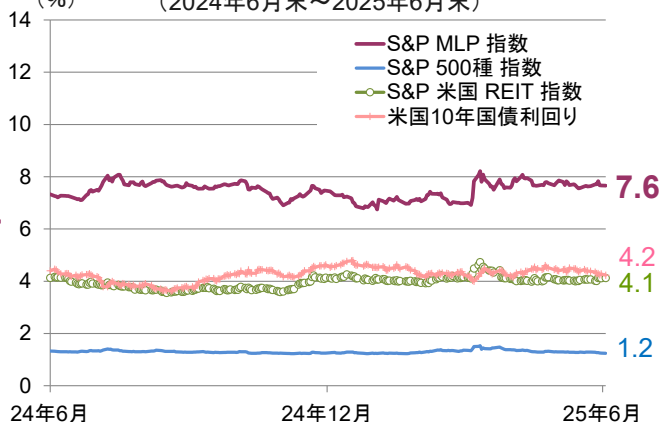


※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

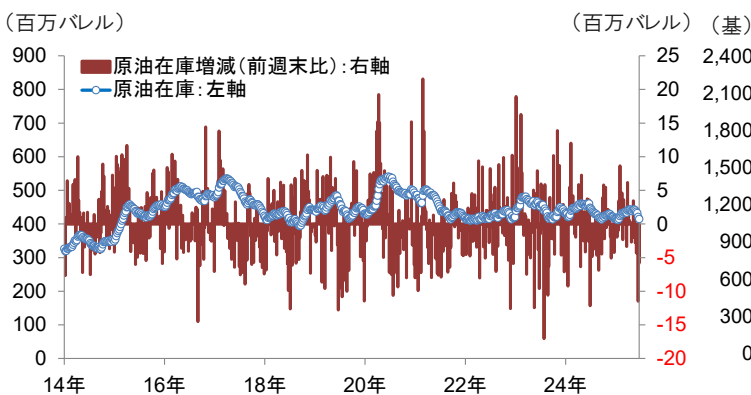
■過去1年の各資産の利回り

(2024年6月末～2025年6月末)



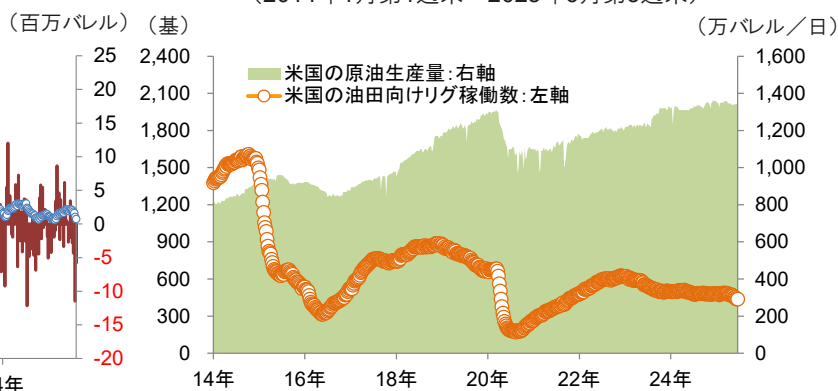
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2025年6月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2025年6月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和と懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2025年6月末)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。